

■(193)被災地にめぐってきた2度目の選挙。次の4年をどう描く

岩手県大槌町で8月に予定される町長選にこれまで2人が立候補を表明した。震災後に町長となった現職と、津波で犠牲になった町長の「職務代理者」を一時任された町職員だ。この町職員は選挙のため定年前に役場を辞めた。あの大混乱の選挙からもう4年がたつ。

役場前の広場に災害対策本部を立ち上げたため、町長ら町幹部がそろって津波で命を落とした。壊滅状態の町を救うため、なるべく早く次の町長を選ぶ必要があるのに、役場内にあった有権者名簿が流失していたので、有権者を把握できない。そもそも選挙事務に詳しい選挙管理委員会の職員も死亡・行方不明でノウハウが途絶えた。その後、全壊した庁舎から発見した住民基本台帳のサーバーのデータを元に選挙人名簿を復元できた。東京などからの応援職員が準備を手伝ってくれた。どこにいるか分からない町外に避難した有権者に向けては、選挙管理委員会担当者が東京で記者会見して、不在者投票を呼びかけた。

壊滅的な被害を受けた町中心部はまだ、地盤のかさ上げ工事中で、ダンプカーと重機が動き回る。候補となる人たちがどんな将来像を住民に示してくれるのか。興味津々だ（山）